

## 1 ホージャー提督の亡霊

- 灼熱のポルトベロ近く  
穏やかな海上を  
真夜中 艦旗をひるがえして  
わが海軍は勝利の航行を続けていた
- ヴァーノン提督は 5  
先のスペイン艦隊との戦いの余韻にひとり  
乗組員たちも 雄叫びをあげて  
イングランド艦隊の勝利に乾杯していた
- 突然 悲鳴があがり 10  
忌まわしい絶叫が聞こえた  
乗組員たちが恐怖で取り乱した その時  
悲しい表情の亡霊の一団が現れた  
全員が経帷子きょうかたびら代わりに  
惨めなハンモックを身に巻き付けて  
いずれの表情も悲しみに曇り 15  
彼方に見える敵の海岸を睨みつけていた
- 青白い月の光が射す中  
毅然としたホージャー提督の亡霊に呼び集められて  
顔青ざめた部下たちが 20  
海底の墓場から立ち上がる  
三千の部下なる亡霊たちを従えて  
月に照らされた海上を ホージャーは  
帆はためくバーフォード号にむかって来て  
呻くようにヴァーノンを呼び止めた
- 「聴け ああ われ等が悲劇の話に耳傾けよ 25  
われは 傷つきしホージャーの亡霊なり  
わが敗北のこの場で  
今 勝利の栄光を勝ち取ったそなた等は

廃墟と化したポルトベロで  
何の恐怖も無く 勝利の美酒をあおっているやも知れぬが 30  
われ等が破滅の原因を知れば  
そなた等の喜びも涙に塗れよう

悲しみに打ちひしがれし亡霊等が  
この憎っくき海上を飛び交う様を見るがいい  
涙のしみに塗れた青ざめし頬を見るがいい 35  
やつ等は勇敢なる英国艦隊の隊長だった  
青白く恐ろしき形相のあの者等を見よ  
かつて わしに仕えし勇猛果敢な水兵だった  
見よ 各々が頭を垂れて  
これから語られる悲劇の顛末に耳傾けようとしている 40

二十隻の戦艦を従えて  
わしは このスペインの町を威嚇した  
交戦すべからず という命令なくば  
その町の富を防御る手段は無かったはず  
ああ この逆巻く海原に 45  
受けし命令など吐き捨てて  
高慢なるスペインの鼻をへし折らんとする  
わが心中の熱き想いに従えばよかったのだ

恐るべき抵抗など何も無かった  
勇敢で幸運なるヴァーノンよ 50  
そなたが六隻の戦艦で成し遂げしことを  
わしが二十隻の戦艦で為しさえしておれば  
さすれば スペイン艦隊が  
われ等が屈辱的な不名誉を目撃することもなく  
この海原が わが勇気ある戦士どもの 55  
悲しき受け墓場となることもなかったであろう

そなた等のように 高慢なるスペインをうろたえさせ  
やつ等のガリオン船を母国に後退させながら  
無念の悲しみに胸張り裂けて死ぬよりも  
命に背いたという汚名を受け 60  
反逆者として死ぬ方が増しだった

イングランド人としての任務<sup>つとめ</sup>を果たしたと  
祖国の民から言われて  
命落す方が増しだったのだ

立派<sup>つとめ</sup>に任務を果たしたそなた等を称賛こそすれ 65

その栄光に不満を述べているのではない  
ただ われ等が悲運の物語を心に留めて  
ホージャーが受けし不当な命令を祖国の民に伝えてほしい  
この苛酷なる気候の地に送り込まれて  
数多くの勇者が熱病に苦しみ悶えて倒れていった 70  
戦闘の中で名誉ある死を遂げたのではなくて  
無為なるうちに命を落していったという真実<sup>まこと</sup>を伝えてほしい

以来 部下の者等一同を従えて  
ぬかるむ海底の墓場から  
白波しぶく海面<sup>うみづら</sup>に浮かび来て 75

消えることなき悲しみを苦々しく咀嚼している  
ここで スペイン艦隊の姿を目撃しながら  
われ等が屈辱の運命を思い起こし  
泣き言も新たに  
真夜中の暗き海面<sup>うみづら</sup>を彷徨<sup>さまよ</sup>うのである 80

もしも 英国に戻ったそなたが  
わが真実<sup>まこと</sup>の願いを無視したならば  
われ等は永久<sup>とわ</sup>に悲しみの波間を飛び交い  
安らかな休息を得ることはなかり  
高慢なる敵を征服し 85

愛国心ある輩<sup>ともがら</sup>に再会するとき  
わが破滅の復讐を  
祖国イングランドが舐めた屈辱の復讐を 忘れるなかれ」

(山中光義訳)